

(その2)

事業報告書

<p>1. 事業名 「ヤギ」サロン</p>
<p>2. 事業の実施内容</p> <p>(1) 実施日時・場所 原則 毎日、毎朝です 令和2年6月1日から令和3年3月10日 午前8時～9時 場所 南コミュニティセンター</p> <p>●ヤギが来なくてもサロンは開催（天候、休館日、年末年始を含め） 当該期間の間は、一日も休むことなく実施した。280日</p> <p>(2) 対象者及び参加人数 「市民全般 親子づれ」にはペットヤギの説明、ヤギとの接し方 高齢者にはヤギの地域美化活動の貢献を解説</p> <p>●参加人員は延べ1900人</p> <p>(3) 実施内容 ：毎朝 ヤギを展示する（普段は原則午後2時～3時までセンターで展示） ：毎朝 特にボランティアスタッフとの知識情報交換は午前8時～9時で ：編集会議 毎月第2火曜日9時～10時 コミセンターで ：「サロン案内」ポスター掲示 ：「チラシ」「めいめい通信」作成配布 ：訪問者にヤギで地域おこしの解説、子供達にはヤギの動物学的解説 時に小学生に出前講座</p> <p>●ポスターA3版カラーパウチ1種類、チラシ両面（一面カラー） めえめえ通信A4版裏表12種類（カラー17ページ、白黒7ページ）</p>
<p>3. 事業の成果（この事業によって何が成果として得られましたか。）</p> <p>：今やブームにもならんとするペットヤギ飼育、「津島にもあり」の存在を知らせることでできた。</p> <p>：ヤギのペット飼育が時代のものになる中、中山間地ではない津島市住宅地内においても地域の協力、理解を得ながら（コミュニティ力養成で）実施できた。</p> <p>：ヤギ飼育に伴い草地、公用地での「芝生の管理ノウハウ」を実施、体験できた。地域美化ヤギー頭の力では不足なので、結果、人がヤギに代わり地域美化ボランティアの組織を作り活動することになる。結果よし。</p> <p>：餌となる草木の入手エリアが活動の広がりにつながった。</p> <p>：津島市内の植生を知る（子供達の教育視点では重要なことである）</p> <p>：強いきずなのボランティアスタッフを得ることができた。</p> <p>：親子連れは、参加地域のエリアが広く、幼稚園の関係で情報得ている様子。</p> <p>：特に夏はコロナで地域の閉じこもる親子の見学参加が多かった。</p> <p>：地域でヤギを飼育する人と知り合いになり、連絡が取れるようになる。</p> <p>●ヤギの魅力を表現できた</p>

4. 事業実施上の工夫（事業の目的達成のため、特に創意工夫した点は。）

： 家畜ヤギ、ペットヤギの問題を飼育現場で比較検討しながら、専門的分野を判りやすい文章で体験報告としてまとめた。

： 通信内容の充実 内容については当初計画の何倍かになった。

： 毎日のサロン型にして多様なスタッフ関係者を増やした。一方、地域の枠組みを超えて市内より多くの人と接した。遠方からは親子が多い。

： 非日常（イベント型）ではなく日常活動（拠点型）として毎日、取り組む

： 地域美化活動としての取り組み（樹木、草の有効利用と美化活動）

草地、樹木のかかわりかを市内全域になる

● 「ペットヤギ」「家畜ヤギ」の考察（視点は誤っていなかった）

家畜視点はコロナ禍で時の流れを得た

5. 事業実施上の反省点（具体的な反省点は。）

： 全市的な活動にかける。コロナのせいだけでなく、ヤギのイベント出張には解決すべき問題が多い。

： 親子の子どもは「ヤギふれあい目的が多く」「めいめい通信」を読む必要がない「通信」の大人への評価は上々。小学校、地域での配布には好評で、読での反応、感想も良い。とにかく、おとなに読ませればよい。

： 「時代の活動」「テーマはブーム」であると自信を持って広報活動をすべきで、流行と知る事がおそかった。

： 見学者から寄付、会費は取りづらい

： ペットでは広告塔以上の効果が出しづらい

● 告知活動の工夫（計画ほど配布できず）

児童館、幼稚園、子育て支援施設などへ案内